

海外におけるウラン探鉱支援事業費補助金

平成30年度予算額 **3.0億円（3.0億円）**

事業の内容

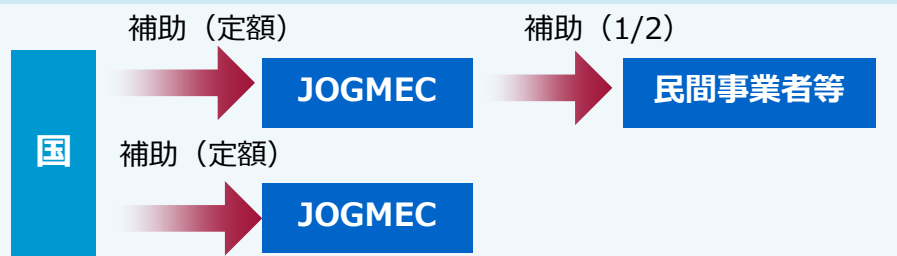
事業目的・概要

- 今後、中国やインド等、世界的に原子力発電が拡大し、中長期的にウラン需給逼迫の可能性が高まると見込まれています。また、ウラン市場は国有企業や資源メジャーによる寡占化が進んでいます。こうした中、ウランの全量を海外から輸入している我が国にとって、中長期にわたって、ウランを安定的に調達することが重要な課題です。
- このため、相手国政府からの要請に基づいて実施する案件など資源国との関係強化に資する案件を中心に、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）がウラン探鉱を実施・支援することにより、ウラン調達の多角化、安定供給の確保を図ります。
- 平成30年度はナミビアやウズベキスタン等での探鉱を継続します。

成果目標

- 本事業は、ウラン資源の安定供給の確保の観点から、ウラン資源の資源量調査・探鉱段階から民間の自主的探鉱事業に移行する件数の向上を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

<事業の流れのイメージ>

- **地質調査**
地形図や衛星写真などの既存資料をもとに、地表調査（目視調査、試料採取及び分析等）を行い鉱床が存在する可能性を検討します。
- **物理探査**
空中や地表から微弱な放射線や磁気などの物理現象を測定し、有望地域を絞り込みます。
- **ボーリング調査**
ボーリングを行うことにより、地下深部でのウランの存在、品位、規模、鉱床の広がりなどを確認します。
- **プロジェクト評価**
ウランの鉱床が確認された場合、その埋蔵量を推定した上で、最適な採掘方法などの生産プロセスを検討し、周辺インフラや環境などを踏まえ、技術的・経済的側面から開発の可能性を評価します。

